

名古屋市における発達障害の子どもの割合

研究代表者 本田 秀夫（信州大学医学部子どものこころの発達医学教室）

研究協力者 山田 敦朗（名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野）

要旨

【概要】本研究の目的は、名古屋市における発達障害の有病率を調査することである。平成 28 年 12 月に名古屋市が発行した「子どもの育ちと保護者意識に関する調査」の報告書に基づき、名古屋市内に居住する平成 28 年度の小学 2 年生の発達障害の有病率を推計した。

また、名古屋市の西部地域療育センター、北部地域療育センター、南部地域療育センターそよ風が平成 30 年に発行した事業概要と、名古屋市が公表している名古屋市の出生数に基づき、発達障害の割合を推計した。

【結果】名古屋市の「子どもの育ちと保護者意識に関する調査」によれば、発達の遅れが気になる子どもの割合は 10.5%で、医療機関で発達障害の診断を受けた子どもの割合は 3.5%であった。一方、3つの地域療育センターの新規相談者数と出生数から推計した、発達の遅れが気になる子どもの割合は 11.8%で、地域療育センターで発達障害の診断を受けた子どもの割合は 11.2%であった。

A. 研究目的

本研究の目的は、名古屋市における発達障害の有病率を推計することである。

B. 研究方法

① 「名古屋市 子どもの育ちと保護者意識に関する調査 報告書」について

平成 28 年 12 月に名古屋市が発行した「子どもの育ちと保護者意識に関する調査」の報告書に基づき、名古屋市内に居住する平成 28 年度の小学 2 年生の発達障害の有病率を推計する。

「子どもの育ちと保護者意識に関する調査」は、「名古屋市の就学前の子育てを支援

する事業、子どもの発達に不安を感じる保護者を支援する事業、発達に遅れのある子どもを支援する事業などに関する将来的な方針を検討するうえでの基礎資料の収集」を目的として平成 28 年 6 月に名古屋市によって行われたものである。「名古屋市内に居住する平成 28 年度に小学 2 年生である子どもの保護者」を対象とし、住民基本台帳から無作為抽出した 10,000 世帯に郵送配布し、郵送回収している。有効回収数は 6,071 件と報告されている。

この調査は、「1 回答者の属性（フェーズ項目）」9 項目、「2 現在の子どもの状況」5 項目、「3 子どもの就学前の保護者の感

じ方」15項目、の全29項目から成る。このうち、「2 現在の子どもの状況」の中の、「2-4 同年齢の子どもと比較した発達状況」、「2-5 障害者手帳の取得状況及び発達障害の判定状況」が発達障害の割合を表していると考えられるため、この結果を抜粋する。

② 名古屋市の北部地域療育センター、西部地域療育センター、南部地域療育センターそよ風が発刊する「事業概要」について

名古屋市の北部地域療育センター、西部地域療育センター、南部地域療育センターそよ風は毎年、事業概要を発刊している。今回は、平成30年に発行されたそれぞれの事業概要と、名古屋市が公表している名古屋市の出生数に基づき、発達障害の割合を推計する。

事業概要にはそれぞれの療育センターに新規相談数が毎年集計されている。平成30年に発行された事業概要には平成29年度の新規相談数が診断区分別に集計されている。この数は、平成29年度の1年間に各地域療育センター内で発生した発達障害数と考えられる。これと同時に、各地域療育センターが管轄する区における出生数の何%に当たるかが、発達障害の割合に近いと考えられる。区の出生数は、最新の平成28年の数を用いることとした。転入出があることや、平成28年の出生者が必ずしも新規相談しているわけではないが、数年では大きな変動がないことから代用できると考える。

(倫理面への配慮)

本調査は名古屋市が調査した報告書で発表されたデータ、地域療育センターが発表し

ているデータを用いて推計しているため、倫理面への問題はないと考える。

C. 研究結果

① 「名古屋市 子どもの育ちと保護者意識に関する調査 報告書」について

「2-4 同年齢の子どもと比較した発達状況」の項目では、アンケートの問いは「現在、あなたは、お子さんが「同じ年齢の子どもに比べて発達が遅れている」と思えますか。」となっており、選択肢は「1 発達に遅れがあると感じている」、「2 発達に気になるところがあると感じている」、「3 発達に遅れや気になるところがあるとは思っていない」、の3つで、どれか1つを選択することとなっている。

これらの結果は、1は181人(3.0%)、2は458人(7.5%)、3は5388人(88.7%)、無回答44人(0.7%)と示されている。1と2を合わせた数が、保護者から見て発達が気になる子どもの数で639人(10.5%)になる。この10.5%という割合は、既に発達障害と診断されている子どもも含めた、発達障害が疑われる子どもの有病率と推測される。性別で見ると、男児421人で、全体の男児3044人中の13.8%、女児は203人で、全体の女児2880人中の7.0%であり、男児の方が割合が高くなっている。

「2-5 障害者手帳の取得状況及び発達障害の判定状況」の項目では、アンケートの問いは「現在、お子さんは障害に関する手帳を取得していますか。また、発達障害に関する診断・判定を医療機関で受けたことがありますか。」などとなっており、選択肢は「1 愛護手帳を取得している」、「2 身体障害者手帳を取得している」、「3 精神障害者福祉

手帳を取得している」、「4 医療機関で発達障害の診断・判定を受けた」、「5 手帳を取得している」の 5 つで、あてはまるものすべてを選択することになっている。

これらの結果は、1 は 67 人 (1.1%)、2 は 29 人 (0.5%)、3 は 3 人 (0.0%)、4 は 212 人 (3.5%)、5 は 5728 人 (94.4%)、無回答 59 人 (1.0%) と示されている。4 の 3.5%という割合が、実際に発達障害と診断されている子どもの有病率と言える。

② 名古屋市北部地域療育センター、西部地域療育センター、南部地域療育センターそよ風が発刊する「事業概要」について

名古屋市北部地域療育センターの平成 29 年度の新規相談者は 349 名と示されている。診断別にみると正常域も 64 名おり、何らかの発達の問題が診断された者は 285 名である。北部地域療育センターの管轄は北区、西区、東区の 3 区である。新規相談者もこの 3 区で 334 名と 95.7%を占める。これはこの 3 区において、発達が気になる子どもはほぼ北部地域療育センターを受診することから、この 3 区における最近 1 年間の発達が気になる子ども達の発生数を表していると考えられる。一方で、平成 29 年版名古屋市統計年鑑に基づく北区、西区、東区の平成 28 年の出生数は、それぞれ 1,278 名、1,323 名、644 名となっていて、3 区の合計では 3,245 名である。この出生者が受診したわけではないが、出生数当たりの新規相談者数の割合で、発達が気になる子どもと実際に何らかの発達の問題が診断された子どもの割合が推計できる。発達が気になる子どもの割合は、出生数当たりの新規相談

者数の割合と仮定すると 349/3,245 で 10.8%となる。また新規相談者のうち正常域と診断された子どもの数を除く人数は実際に何らかの発達の問題を指摘されていることから、出生数当たりのこの人数は、発達障害と診断を受けた子どもの割合と仮定することができ、285/3,245 で 8.8%となる。

同様に、名古屋市西部地域療育センターについては平成 29 年度の新規相談者は 461 名と示されている。診断別にみると正常域も 6 名で、何らかの発達の問題が診断された者は 455 名である。西部地域療育センターの管轄は中村区、中川区、港区の 3 区である。新規相談者もこの 3 区で 100%を占めている。一方で、南部地域療育センターそよ風については平成 29 年度の新規相談者は名古屋市西部地域療育センターと同じ 461 名と示されている。診断別にみると正常域は 1 名で、何らかの発達の問題が診断された者は 460 名である。南部地域療育センターそよ風の管轄は南区、緑区の 2 区である。しかし新規相談者はこの 2 区で 134 名と 29.1%しか占めておらず、港区の相談者が 327 名と 70.9%を占めている。こうした現状から港区では、西部地域療育センターと南部地域療育センターそよ風と 2 ヶ所に分かれて受診していると考えられ、両センターの新規相談者を合計して推計しなくてはならない。平成 29 年版名古屋市統計年鑑に基づく中村区、中川区、港区の平成 28 年の出生数は、それぞれ 1,030 名、1,963 名、996 名となっていて、合計では 3,989 名である。南区、緑区の平成 28 年の出生数は、それぞれ 999 名、2,514 名となっていて、合計では 3,513 名である。5 区合計では

表 1. 名古屋市における地域療育センターの平成 29 年度の新規相談者数

	新規相談者数	正常域と判断された数
北部地域療育センター	349	64
西部地域療育センター	461	6
南部地域療育センターそよ風	461	1

表 2. 名古屋市における平成 28 年の出生数 /10,747 で 11.2%と推計される。

	出生数
西区	1323
東区	644
北区	1278
中村区	1030
中川区	1963
港区	996
南区	999
緑区	2514
名古屋市全体	19542

7,502 名となる。このため、この 5 区における発達に気になる子どもの割合を、出生数当たりの新規相談者数の割合と仮定すると 922/7,502 で 12.3%となる。発達障害と診断を受けた子どもの割合は、出生数当たりの新規相談者のうち正常域と診断された子どもの数を除く人数と仮定すると、915/7,502 で 12.2%という結果になる。

西部地域療育センター、北部地域療育センター、南部地域療育センターそよ風をすべて合計した場合は、新規相談者数は 1,271 名で、北区、西区、東区、中村区、中川区、港区、南区、緑区の 8 区合計の出生数は 10,747 名であり、発達に気になる子どもの割合は 1,271/10,747 で 11.8%、発達障害と診断を受けた子どもの割合は、1,200

D. 考察

名古屋市の「子どもの育ちと保護者意識に関する調査」の報告書から、名古屋市内に居住する平成 28 年度の小学 2 年生における、発達の遅れが気になる子どもの割合が 10.5%、発達障害と診断された子どもの割合が 3.5%と推計された。これは無作為抽出による標本調査であり、名古屋市全体の状況を表していると考えられる。

一方、西部地域療育センター、北部地域療育センター、南部地域療育センターそよ風の新規相談者の人数と出生数から推計した、発達の遅れが気になる子どもの割合と発達障害と診断された子どもの割合は、北区、東区、西区の 3 区合計で 10.8%と 8.8%、中村区、中川区、港区、南区、緑区の 5 区合計で 12.3%、12.2%であった。

この推計にはいくつか限界がある。第一は平成 28 年の出生者は平成 29 年度の新規相談者とは異なることである。また出生後に転入出があることから人数も変動している可能性がある。第二に、新規相談者の年齢層は就学前がほとんどであり就学以降はほとんど組み入れられていない。発達障害の多くは就学前に診断されることが多いが、就学後もまれではないため新規発生数はもう少し多いことが予測される。第三に、新規

相談はすべて受診可能ではなく一定の枠に制限されている。ただ前年からの繰り越しと翌年の繰り越しがほぼ同じであれば大きく変動することはないと考えられる。第四に、療育センター間による診断のばらつきである。北部地域療育センターは西部地域療育センター、南部地域療育センターそよ風に比較して正常域の診断が多かった。診断が特定の医師に偏るとばらつきは大きくなる可能性がある。こうした限界はあるが、名古屋市全体の出生数は 19,542 名であり、その中で今回対象にした 8 区合計の出生数 10,747 名は全体の 55.0%に当たる。こうしたことから、今回の割合はおおよそではあるが、名古屋市全体の発達の遅れが気になる子どもや発達障害と診断を受けた子どもの割合を表しているものと考えてよいであろう。

名古屋市の「子どもの育ちと保護者意識に関する調査」と 3 つの地域療育センターの新規相談者数からの推計を比較すると、発達の遅れが気になる子どもの割合は前者が 10.5%で後者は 11.8%と近似した結果となった。一方、発達障害と診断を受けた子どもの割合は前者が 3.5%で後者は 11.2%と大きな解離が出た。この差は、前者が小学校 2 年生までに医療機関を受診した割合であり、後者は就学前に療育センターを受診した時についた診断であることによるものと考えられる。療育センターで相談を受けて診断を受けた後者のようなケースが前者に含まれていない可能性が高い。すなわち、就学前に療育センターを受診し診断を受けたケースのうち、3 割ぐらいしか医療機関を受診して診断を受けていないのではないだろうか。

今回は既存の報告や他施設の受診結果から発達障害の子どもの割合を推計した。今後は他地域と同じ内容のアンケートを実施し、比較していくことが必要であろう。

E. 研究発表（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

1. 論文発表
特になし
2. 学会発表
特になし

F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
特になし
2. 実用新案登録
特になし
3. その他

G. 参考文献

「名古屋市 子どもの育ちと保護者意識に関する調査 報告書」名古屋市子ども青少年局平成 28 年 12 月

「事業概要 平成 29 年度版(2017 年度版)」名古屋市北部地域療育センター 平成 30 年 9 月

「事業概要 平成 29 年度版(2017 年度版)」名古屋市西部地域療育センター 平成 30 年 6 月

「2018 年度事業概要」南部地域療育センターそよ風 平成 30 年 7 月

名古屋市：平成 29 年版名古屋市統計年鑑 2.人口（市政情報）

<http://www.city.nagoya.jp/somu/page/0000102700.html> より 2-13. 区別出生数、死亡数